

令和4年10月1日(土)
高志高校説明会(中学校3年生保護者対象)においていただいた質問と回答

【Q1】海外に留学する生徒は、留学後に再び高志高校に戻って来ることができますか。

帰国後は、高志高校で再び学ぶことができます。ただし、高志高校を休学して留学する場合と休学せずに留学する場合とで、帰国後にどの学年に入るかが異なります。最近では、海外留学したまま現地の高校を卒業し、日本に戻らずに海外の大学に進学することを考える生徒も出てきました。

【Q2】今日の説明で示していただいた大学の進学者数は、いわゆる内進生・高入生の両方を含まれますか。

はい、その通りです。

【Q3】大学進学の実績を高志中出身者、それ以外の中学校出身者で分けていないのですか。

どの生徒も「高志高校生」ですので、出身中学校によって分けてお伝えすることはしていません。いわゆる高入生の皆さんも、自分の進路志望決定に向けてよく努力してくれるので、ここ最近では、これまで以上に好ましい傾向を示しています。

【Q4】理数創造科・人文創造科の学科選択は、教科の成績によって決められるのでしょうか。

いいえ。基本的には、生徒の希望に基づいて決定します。

【Q5】理数・人文の選択の人数比はどれくらいですか。

現在の2年生、3年生では、7クラス中、理系が4クラス、文系が3クラスあります。

【Q6】生徒たちは、どのように学科を決めていくのでしょうか。

探究の時間に、1年次の9月から「予備的研究」を行うことになっています。これによって、自分が理数・人文のいずれが適しているのかを判断することができます。また、各クラスにおいて、1年次の早い段階から進路選択に関する指導・支援を行い、生徒に自分の将来について考えるよう促していきます。このような過程を経て、生徒は12月頃までに学科を決定します。

【Q7】2年生で選んだ学科を、3年生になるときに変更することはできますか。

それはできません。教科・科目の履修に問題が生じるからです。1年次の後期に学科選択をする際に、よく考えて学科を選ぶ必要があります。

【Q8】模擬試験は、どこの業者のものを使いますか。

ベネッセ、河合塾、駿台予備校、代々木ゼミナールなど、複数の業者のものを使います。学年が進むにつれて、模擬試験の数や業者の種類が増えます。

【Q9】他の高校では、講師を招いて進学講演会を行うと聞きます。高志高校では実施しますか。

はい。今年は、1年生・3年生では駿台予備校から、2年生では河合塾から講師を招いて生徒や保護者対象に講演会を実施しました。このほかに、各学年において、必要な時期に、進路

支援部や学年担任の教員らから、必要な情報提供等をします。

【Q10】部活動の休養日はどのようになっていますか。

基本的に、平日は週に1日、休養日を設けています。曜日は部によって異なります。土日は、大会前などは両方とも活動することもあります。年間を通してみると、無理のない練習計画を組むようにしています。

【Q11】高志高校のSSHの特長を教えてください。

探究学習を行う授業「KoA」（「コア」と読みます）は、1年次に週2時間、2年次に週2時間、3年次に週1時間あります。探究の時間は3年間で最大6時間まで設定することができるので、本校の時間設定は多い方とすることができます。

また、今年の1年生から、内進生と高入生と一緒に「KoA」の授業で学ぶようにしました。出身中学校の別に関係なく、互いに切磋琢磨しながら探究活動をすすめてもらいたいと考えています。

【Q12】SSHとSGHの関係性についてもう少しわかりやすく教えてください。

本校は、文部科学省からSSHに指定されており、全学年・全生徒がSSHプログラムの対象です。課題研究に関していうと、理数創造科に進む生徒は理数分野のテーマで、人文創造科に進む生徒はグローバル／地域創造／人文等の分野に関するテーマで課題研究を行います。SGHは平成26年度～30年度の5年間本校が指定されていたもので、人文創造科に進む生徒の課題研究は、SGHのカリキュラムに基づいて行います。

【Q13】高校は、子供で入って大人で卒業するところだと聞いたことがありますが、TeachingとCoachingについて、学校ではどのように考えていますか。

「知識や情報を持っている人がそうでない人に伝授する」という意味では、教員は生徒にTeachingを行う場面が学校では多くあります。しかし、闇雲に「覚えなさい」「やりなさい」と強制して行わせることはありません。

本校では、「あなたは何のためにこれをやるのか」「それをやることによってどうなりたいのか」を問い、「それを実現させるために、いつまでに何にどのように取り組むのか」と生徒自身に見通しを立てることを促します。生徒がアクションやチャレンジをした後には、それを振り返ることを促し、「計画通りにできたか」「次のステップに活かすためにはどうすると良いか」等、内省や改善を促します。このような意味で、教員は、Coachingというスタンスで生徒をサポートします。

このようなアプローチを続けることで、生徒は主体的に行動を起こすようになり、自分で自分の取組を振り返るようになってくれるものと信じています。

本校では、教員がTeachingとCoachingの両方のバランスをとりながら、生徒の皆さんに対応していきます。